

堀切小学校の防災教育

太 平洋に面し、海拔が低い場所にある堀切地区は、安政東海地震（1854年）による津波で大きな被害がありました。地域では、東日本大震災後、津波に対する危機感が一層増し、堀切小学校を中心に、PTAや校区・自治会と連携しながら、津波に備えた訓練を行っています。

■**避難場所を変更**
堀切地区では、これまで小学校を避難場所としていましたが、市と地域の関係者が話し合った結果、より高台で安全な渥美総合運動公園を避難場所とすることになりました。

■**渥美総合運動公園までいち早く逃げよう！**
▼**避難訓練①：5月25日水**
校内放送の合図で、児童が一齐に渥美総合運動



●リアカーを使って避難する様子



●走って避難する児童たち

▼**避難訓練③：7月14日木（登校時）**

登校時の地震を想定して行いました。通学班ごと家族が1人以上付き添い、一斉メールを合図に避難訓練を開始しました。堀切市民館を境にして、西側にいる班は寅之神社に、東側にいる班は渥美総合運動公園に避難しました。



公園を目指して走りまわりました。PTAや校区・自治会の方も協力・参加しました。

▼**避難訓練②：6月24日金**

停電を想定し、メガホンで訓練開始の合図をして渥美総合運動公園まで避難しました。また、体調不良などで自力で避難できない児童をリアカーや背負子で避難させる訓練も行いました。

防災講演会を開催



●講演する片田氏

7月2日（土）、「自らの命を守る主体的姿勢を育む防災教育」をテーマに防災講演会を開催し、地域住民約250人が参加しました。講師は、岩手県釜石市で津波防災教育に取り組んでこられた片田敏孝氏（広域首都圏防災研究センター長・群馬大学大学院教授）で、今回の震災ではその取り組みが生かされ、釜石市のほとんどの児童・生徒は津波被害を逃れました。

講演では、こうした事例を参考に、避難における「想定にとらわれないこと」「最善を尽くすこと」「率先して避難すること」の重要性が、説得力をもって語られました。

地域へも広がり

7月10日（土）には、堀切地区として津波避難訓練が行われました。訓練には、地域住民約400人が参加し、それぞれ避難経路を確認しながら避難でき、有意義なものとなりました。

今後の目標

- 避難訓練を継続し、避難に要する時間を短縮したい
- 避難経路を点検し、安全性を高めたい

「想定にとらわれるな」「最善を尽くせ」「率先避難者たれ」が「避難3原則」